

目的

- ・都市計画道路はりまや町一宮線 (はりまや工区) については、令和7年4月に4車線供用を開始した。
道路を拡幅する新堀川には希少動植物が生息していることから、生物の生息環境をできる限り確保する水辺環境づくりを行った。
- ・工事完成后、5年程度のモニタリング調査を実施し、必要に応じて環境の改善に取り組むこととしている。(R7~R11)
- ・令和7年度の調査結果の概要について取りまとめる。



調査箇所位置図

地理院地図 (電子国土WEB) 引用

新堀川地区 I



新堀川地区 I の干潟

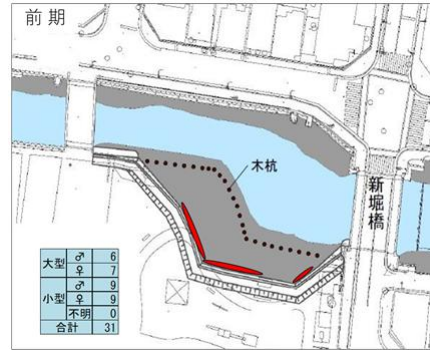


図1.1 新堀川地区 I での確認箇所および確認数

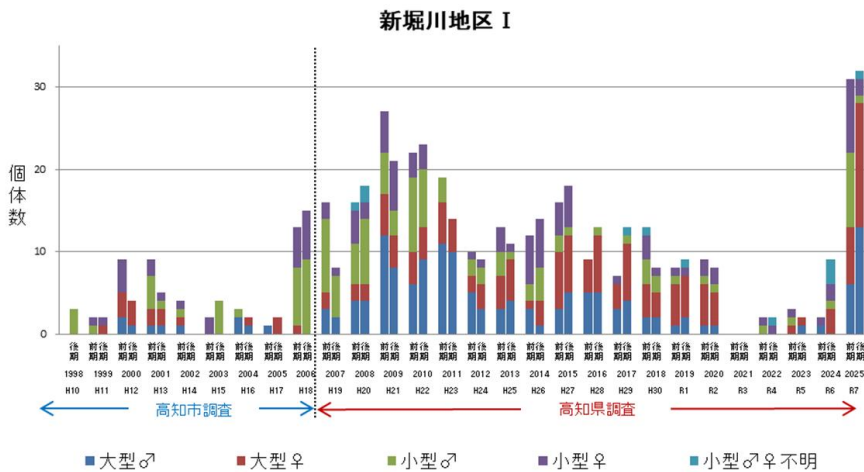


図1.2 新堀川地区 I での確認個体数の推移



写真1.1 確認された大型個体 (2025.6.27撮影)



写真1.2 確認された小型♂個体 (2025.9.19撮影)

令和7年度に新堀川地区 I でシオマネキが確認された箇所を図1.1に示す。前期に31個体の活動が確認された。(写真1.1) 後期に32個体の活動が確認された。(写真1.2)

新堀川地区 I での確認個体数の推移を図1.2に示す。令和2年度に工事の影響を受ける個体を捕獲し、新堀川地区 II の造成干潟に移植したため、令和3年度には確認されなかった。造成した干潟上では、令和4年度から新規に着底した個体が確認されはじめ、令和7年度には工事が開始される以前の規模を上回る個体が確認された。シオマネキの個体数増加は、干潟造成および継続的な整備を通じて、良好な生息環境が確保されたことによる効果と考えられる。

新堀川地区Ⅱ



新堀川地区Ⅱの干潟

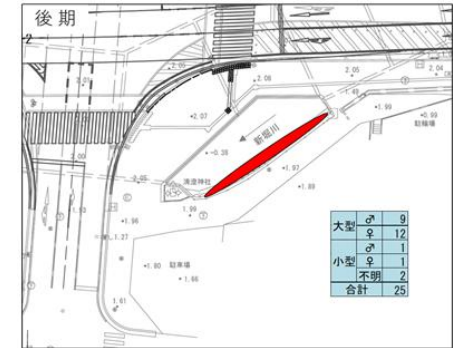
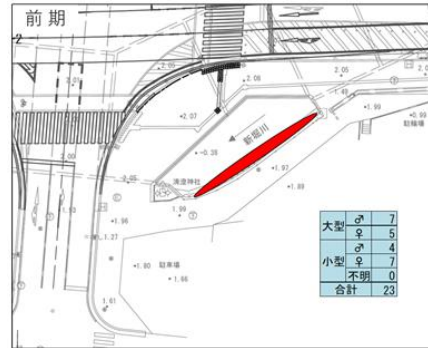


図2.1 新堀川地区Ⅱでの確認箇所および確認数



写真2.1 確認された大型個体
(2025.7.24撮影)



写真2.2 確認された小型♀個体
(2025.10.8撮影)

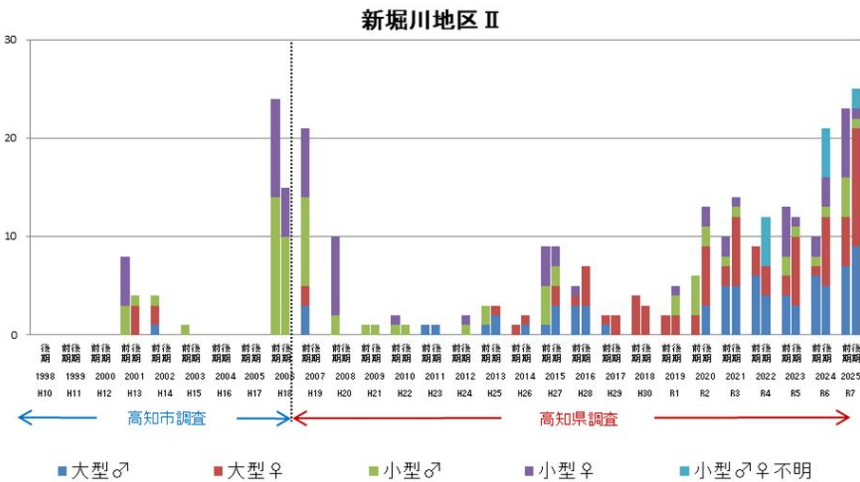
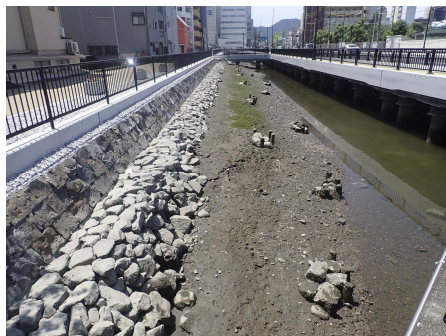


図2.2 新堀川地区Ⅱでの確認個体数の推移

令和7年度に新堀川地区Ⅱでシオマネキが確認された箇所を図2.1に示す。
前期に23個体の活動が確認された。(写真2.1)
後期に25個体の活動が確認された。(写真2.2)

新堀川地区Ⅱでの確認個体数の推移を図2.2に示す。
令和2年度は、新堀川地区Ⅰからの移植個体と既存個体の合計14個体であった。
造成した干潟では、シオマネキの生息に適した環境を担保するために、継続した土砂投入による地盤高の確保を行った結果、令和7年現在では、道路拡幅工事が行われる当時の規模にまでシオマネキの個体数が回復した。

新堀川地区Ⅲ



新堀川地区Ⅲの干潟

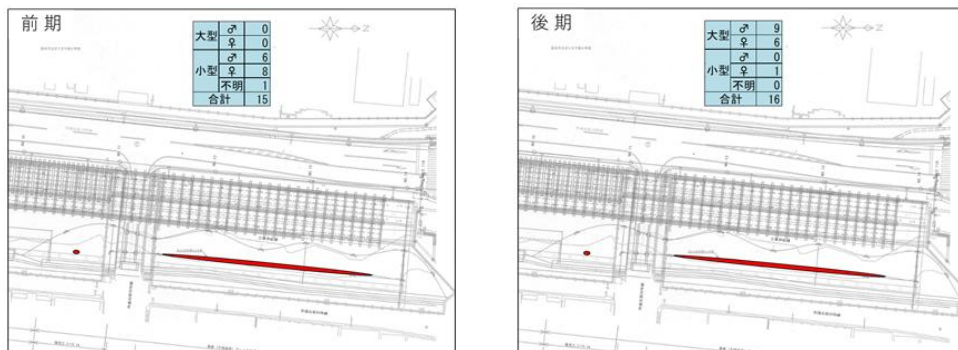


図3.1 新堀川地区Ⅲでの確認箇所および確認数



写真3.1 生息が確認されたハクセンシオマネキ (2025.9.9撮影)

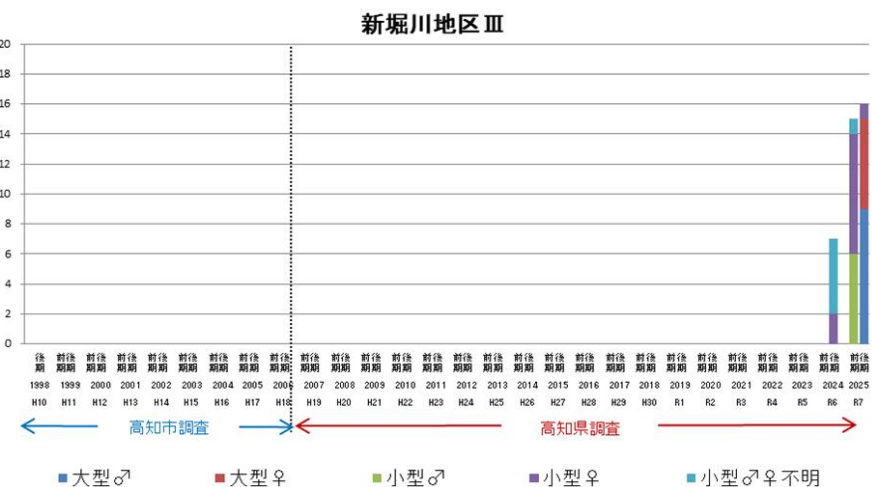


図3.2 新堀川地区Ⅲでの確認個体数の推移

令和7年度に新堀川地区Ⅲでシオマネキが確認された箇所を図3.1に示す。前期に15個体の活動が確認された。後期に16個体の活動が確認された。また、新堀川地区Ⅲではハクセンシオマネキが平成30年度の調査以降で初めて着底が確認された。(写真3.1)

新堀川地区Ⅲでの確認個体数の推移を図3.2に示す。当地区は、水辺環境創出のため、令和5年度に新たに整備した干潟である。令和6年度の調査で初めて新規着底個体が確認された。令和7年度の調査では、前年に着底したと考えられる大型個体や当年の新規着底個体が確認された。

- ・新堀川地区Ⅰでは、令和7年の調査で最大32個体が確認され、令和6年度から実施している底質硬度緩和による効果が確認された。
- ・新堀川地区Ⅱでは、令和7年の調査で最大25個体が確認され、令和2年度の移植以降、個体数は増加傾向である。
- ・新堀川地区Ⅲでは、令和7年の調査で最大16個体が確認され、シオマネキの着底や生存に適した底質環境が新たに創出できていると考えられる。
- ・シオマネキの動向について、必要に応じて有識者の意見を得ながら継続して調査を行っていく。